

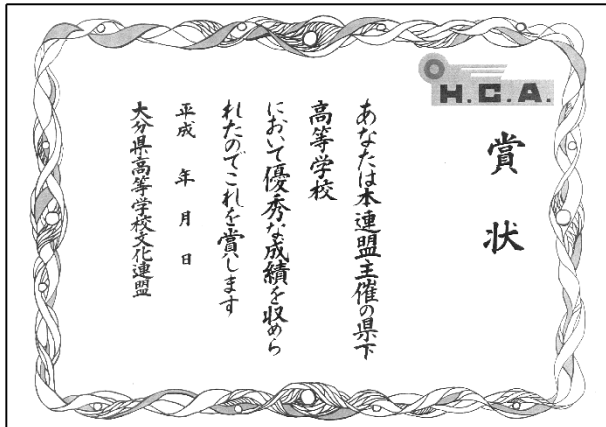


大分県高文連マーク

昭和 27 年県下に公募した最優秀作品に、宮崎豊校長（当時、日出校長・高文連副会長）および進来哲（高文連美術部長）・首藤万寿夫教官で少しく手を加えてまとめたものである。

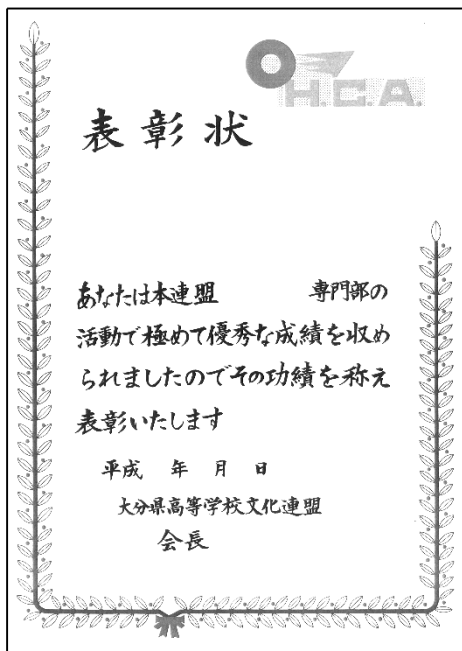
本来バッジとして作成されたもので、銀地の台に H. C. A.（大分県高等学校文化連盟の頭文字）を浮かせ、左上の O は金色である。高文連主催の各行事に参加した生徒の中で優秀なものに贈られていた。

昭和 52 年、黒川洋孝教諭（当時、高文連美術部長）のデザインにより、ライトブルーの地に高文連マークの鳥の目が真っ赤に映える高文連旗が作成され、第 2 回中央文化祭の開会式で試用された。また、53 年の評議委員会で大分県高文連旗として公式に承認された。



「高文連賞」

渡辺恭英先生デザイン
最優秀賞・優秀賞等に使用する。



「表彰状」

田中 昇先生デザイン
高文連生徒表彰に使用する。
昭和 29 年制定